

## 2025 年度 部局 FD 活動報告

工学部・工学研究科

<p>1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。(必ずご記入ください)</p> <p>工学研究科の全教員を対象としたFD集会は、公立大学工学教務委員会で企画している。その他教育改善に係わる情報も工学教務委員会で共有している。また、各学科・分野ごとにFD会議を開催することで、各科目や各教育課程に関する改善や情報共有を個別に行っている。</p>		
<p>2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p>		
開催日	内容(タイトル)	参加者数
2025.08.25	工学FDセミナー「研究室等におけるハラスメント事例とその対策ー工学分野や理系分野を中心に」	222人
<p>3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催</p>		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)〜について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
第1回工学FD報告会	(2026年3月12日開催予定)	22人
航空宇宙工学FD会議	月1回の教室会議において、学生の履修状況や学習成果についての点検・評価と、教育の質の改善・向上に関する検討を実施(12回)。	13人
2025年度第1回海洋システム工学科/分野FD会議	2025年度海洋システム特殊講義の日程確認および内容に関する審議(4月22日)	9人
2025年度第2回海洋システム工学科/分野FD会議	前期学外実習(JMU工場見学@津, 新来島サノヤス造船見学会@大阪造船所)の日程と内容確認、2025年度FD活動取組内容についての協議(5月27日)	11人
2025年度第3回海洋システム工学科/分野FD会議	2026年度以降の初年次ゼミナールの在り方についての協議(6月24日)	10人
2025年度第4回海洋システム工学科/分野FD会議	2025年度卒業研究ループリック評価方法についての協議、2025年度度海洋システム総合演習の内容及びスケジュールについて協議(7月29日)	11人
2025年度第5回海洋システム工学科/分野FD会議	2026年度入学生からの大学院特別演習・特別研究の変更についての協議、総合型選抜入学生の現状についての情報共有(9月30日)	11人
2025年度第6回海洋システム工学科/分野FD会議	博士前期課程英語コース提供科目について、2026年度前期森ノ宮開講科目の実施要領について協議(10月28日)	9人
2025年度第7回海洋シ	2025年度初年次ゼミナールおよび「エンジニアのためのキ	11人

システム工学科/分野 FD 会議	キャリアデザイン」担当者選出、2025 年度前期科目 GPC の共有と協議（11月25日）	
2025 年度第 8 回海洋システム工学科/分野 FD 会議	外部評価委員会の開催および内容について協議、初年次ゼミナールの内容について協議（12月23日）	10 人
2025 年度第 9 回海洋システム工学科/分野 FD 会議	DP, CP の確認, 「工学研究の最先端」担当者選出（1月27日）	9 人
2025 年度第 10 回海洋システム工学科/分野 FD 会議	2025 年度外部評価委員会の開催および内容について協議（2月24日実施）	11 人
2025 年度海洋システム工学科/分野 FD 外部評価委員会	分野FD外部評価委員会を開催。以下の内容を報告し、外部評価委員より、評価・意見を頂く。 ・2025年度活動報告（入試・教育・研究） ・入学者分析、分野将来構想、研究発信状況 ・その他大学の状況（3月17日）	20 人
2025 年度第 11 回海洋システム工学科/分野 FD 会議	年度の FD 活動の振り返り（3月24日）	11 人
教育点検・生活指導委員会	学生の履修状況や授業の問題点等を教員間で情報共有し、分野内アドバイザーへ対応が必要な学生に対する対処を依頼した(4/24, 5/29, 6/26, 7/31, 9/4, 9/25, 10/30, 11/27, 1/8, 1/29).	30 人/回
第 1 回機械工学科 FD 集会	弁理士を招き、研究活動に関わる成果の公表についての扱いについて勉強会を実施した, (5/15)	30 人
第 2 回機械工学科 FD 集会	工学部再編を視野に置き、新しいカリキュラムや研究組織の構成について議論した, (7/10)	30 人
機械工学・科目間調整 WG	<p>・<u>機械基礎実験</u>： 今年度の科目運営(4/21, 9人), 発表会の開催方法, 成績評価, 欠席学生の対応(6/9, 10人), 発表会講評, 成績評価, 次年度に向けて(8/4, 11人)などについて協議した他, 授業実施期間を通じて学生の出欠状況を情報共有した.</p> <p>・<u>機械応用実験</u>： 本年度の履修者の確認, 実施内容, 成績評価法について協議(9/20, 6人), 実験装置の動作の確認や担当 TA への指導(10/2, 5名)を実施した.</p> <p>・<u>コース演習</u>： 2025 年度の実施状況を分野内会議で共有するとともに, 次年度に向け授業効率化のための実施方法の改善案について協議を行った (1/8, 36人)</p>	36 人

	<p>・<u>機械工作実習</u>： 昨年度後期実習の実施状況およびヒヤリハット情報の共有と問題点の検討，今年度前期実習実施予定の説明(3/7, 17名)．今年度後期実習の実施予定および問題の改善に向けての意見交換，今年度前期実習の実施状況及びヒヤリハット情報の共有と問題点の検討（20名，8/25）．</p> <p>・<u>機械製作実習</u>： 今年度の実施内容の振り返りと改善点を協議，成績評価方法の確認(1/21, 6名)</p> <p>・<u>機械製図演習</u>： 担当者間で授業実施を踏まえての問題点を整理するとともに授業改善に向けた協議をし，次年度の授業に活かすことにした（メール審議・2/9～2/17, 15人）</p>	
公大建築会議	第5回「情報技術と建築」	13人+学生
公大建築会議	第6回「現代の建築構造の研究者とは」	13人+学生
都市学科会議	学科会議(毎月開催)	20人
都市学科FD集会	学科FD集会を2回開催した．第1回(11/4)「総合型選抜入学者の成績の推移について」，第2回(3/3)「大学入試における女子枠について」	20人
電子物理系専攻教授会	<p>第1回(4月24日) 学生異動，既修得単位認定，大学院入試(飛び級制度)，研究指導計画書の作成，B2コース配属，FD活動報告に対する外部委員評価について</p> <p>第2回(5月29日) 学部推薦入試，大学院入試実施体制，基礎教育科目(数学)の配当年次について</p> <p>第3回(6月26日) 編入学試験，大学院入試口述試験について</p> <p>第4回(7月31日) 転学科の実施内容，2026年度以降のカリキュラム変更，大学院特別演習・特別研究の変更案，学生調査担当者について</p> <p>第5回(9月25日) 電子物理工学概論1単位取得状況確認，B2コース配属について</p> <p>第6回(10月30日) 電物専門科目の1クラス化および選択科目化</p> <p>第7回(11月27日) 学生異動，2026年度以降のカリキュラム変更について</p> <p>第8回(12月25日) 2026年度講義担当，特別選抜・編入学試験について</p> <p>第9回(1月29日) FD活動報告，研究指導報告書，入試制度について</p>	16人

	<p>第 10 回 (2 月 26 日), 編入学単位認定, 要覧確認, ディプロマサプリメント, 時間割確認, 次年度前期遠隔授業, M2 研究業績優秀賞・電気クラブ賞推薦, B4 学業成績優秀賞推薦</p> <p>第 11 回 (3 月 26 日) 教職課程自己点検の予告, 「ていら・みす」学生アドバイザー登録, ディプロマサプリメント電物の重み設定</p>	
電子物理系専攻 全体会議	上述した専攻教授会と同じ日程で開催し、同会議の内容を構成員間で共有した (計 11 回)。	42 人
電子物理工学 (電子物性コース) 担当者会議	<p>上述した専攻教授会の内容に加え、</p> <p>第 1 回 (4 月 24 日) 卒論・修論発表, B4 学生配属, 編入学試験, 集中講義</p> <p>第 2 回 (5 月 29 日) 研究指導計画書, 飛び級, 編入学試験, 新入生保護者懇談会, 高校研究指導</p> <p>第 3 回 (6 月 26 日) 大学院入試, 卒論 (B4) 中間発表会および卒論・修論発表会の日程確認</p> <p>第 4 回 (7 月 31 日) 大学院入試, B2 コース配属</p> <p>第 5 回 (9 月 25 日) 9 月修了, 卒論 (B4) 中間発表会の日程確認</p> <p>第 6 回 (10 月 30 日) 修論の主査担当, 次年度集中講義, B4 中間発表会, 文科省半導体人材育成, 研究室説明会 (B3 対象)</p> <p>第 7 回 (11 月 27 日) 次年度集中講義, D3 公聴会, 研究室説明会, 講義の廃止, 再編後の教職課程</p> <p>第 8 回 (12 月 25 日) 卒論・修論, D3 公聴会, 大学院入試 (2 次), 2026 年度講義担当</p> <p>第 9 回 (1 月 29 日) 卒論・修論発表, 進路相談, R8 年度研究室配属</p> <p>* 毎回: 進路状況 (進学・就職) の確認, および成績不良者への対応に関する報告・意見集約</p>	10 人
電子物理工学 (電子物性コース) 教室会議	上述した専攻教授会・講担会議と同じ日程で開催し、上記 2 会議の内容を構成員間で共有した (計 11 回)。	27 人
電子物理工学実験 (電子物性コース) 会議	<p>第 1 回 (4 月 7 日) 新任教員への指導方針の確認および指導内容の引継ぎ (3 名)</p> <p>第 2 回 (8 月 19 日) 採点基準の見直しについての検討会議 1 (9 名)</p> <p>第 3 回 (1 月 29 日) 採点基準の見直しについての検討会議 2 (10 名)</p>	参加人数は左記の通り
電子物理工学	上述した専攻教授会に加え、	6 人

<p>(電子材料コース) 教授会</p>	<p>5 月度 (5 月 29 日) 工学再編, 退職教員後任人事  6 月度 (6 月 26 日) 材料コース院出願状況, 会社見学計画 (住友電気工業株式会社大阪製作所), 編入生担当チューター教員  7 月度臨時 (7 月 4 日) D 進学希望学生の特別事情対応の検討, 会社見学報告, 学籍移動予定報告 (休学 1 名)  7 月度 (8 月 7 日) 院試, 学籍移動 (休学 2 名, 復学 1 名), コース分け希望結果分析  10 月度臨時 (10 月 9 日) 市大必修科目 (機械提供の工業数学 II・III) の履修状況確認と 2026 年度以降の対応法, 編入学の物性/材料比率案の承認, 博士前期・後期入学手続者数の確認  10 月度 (10 月 30 日) 2026 年度コース体制案の策定  12 月度臨時 (12 月 15 日) 進級見込・卒業見込, 卒研配属人数の検討  12 月度 (12 月 25 日) 卒研配属人数の再検討, 卒論・修論日程の確認  1 月度 (1 月 28 日) 卒業研究配属案 (含新任+兼任) 再々検討, 修論主査・副査・プログラム案事前検討  2 月度 (2 月 26 日) 学籍異動, TA 選出, 新 B4 用卒研ガイダンスプログラム検討  3 月度 (3 月 26 日) 学位授与式昼食会会計, 新 B4 用卒研ガイダンスプログラム確定  ※各回において随時: 教員数大幅減に伴う次年度以降に向けた授業担当者・実験担当者・卒研受入教員の検討と人員確保実施 (新規非常勤雇用・量子放射線教員の兼任・類似科目による読替など)</p>	
<p>電子物理工学 (電子材料コース) 教員会議</p>	<p>上述した専攻教授会の内容を電子物理工学教員会議にて共有するとともに, 電子材料コース固有の案件について, 以下のとおり, 電子材料コース教員会議を実施した。  4 月度 (4 月 24 日) 学籍移動の確認, 会社見学計画の確認, 飛び級候補者の確認, 修論・卒研発表日程案の確認  5 月度 (5 月 29 日) 後期 TA・SA の依頼, 2026 年度以降のコース体制案の確認  6 月度臨時 (6 月 12 日) 後期 TA・SA の確定, 院試出願状況の確認  6 月度 (6 月 24 日) 院試出願状況の再確認, 会社見学準備進捗の報告, 編入生のチューター担当教員の決定, 「技術と環境」担当者の検討・決定, ていらみす学生アドバイザー登録状況の確認</p>	<p>15 人</p>

	<p>7月度（8月7日）学籍移動の確認（休学2，復学1），2026年度着任予定人事状況報告，コース分け希望結果の報告・分析・対策検討，「技術と環境」順番検討，A5棟改修に伴う講義室変更（2科目）の確認</p> <p>8月度（8月25日）博士前期・後期入試の状況報告と分析，「技術と環境」順番確定，学生実験不合格者の報告・分析・対策検討，後期ガイダンス日程・内容の策定</p> <p>10月度（10月30日）2026年度着任予定人事状況，修論・卒研発表日程の確定，2026年度学生実験テーマ・担当者調整の報告</p> <p>12月度（12月25日）進級見込の確認，卒研配属数の検討，2026年度着任予定人事状況の報告，院：特別演習（電子材料1）の担当教員の検討・確定，修論・卒研日程の確認</p> <p>1月度（1月28日）卒業研究配属案（含新任＋兼任）検討，修論主査・副査・プログラム案検討</p> <p>2月度（2月26日）学籍異動，TA選出</p> <p>3月度（3月26日）学位授与式昼食会次年度実施方法，新B4卒研ガイダンスプログラム報告</p> <p>※各回において随時：進路状況（進学・就職）の確認，成績不良者への対応に関する報告・意見集約・必要に応じて対策実施</p>	
<p>電子物理工学実験 (電子材料コース) 担当者会議</p>	<p>2025年6月12日（木）電子物理工学実験1（前期）前半の学生の取組状況把握（出席・レポート提出状況確認），後半の指導に活用，以降情報共有は全てメール連絡</p> <p>2025年8月18日（月）電子物理工学実験1（前期）の成績判定会議</p> <p>2025年10月28日（火）2025年後期および2026年度における学生実験日程，ポスター発表会（1/15 14:00@B7 1F ホール）の計画検討，後期途中で出席状況確認，今年度中の購入必要物品リストアップ，将来的な実験課題の見直し，2026年度シラバス内容確認，UNIPAへの登録作業確認（次年度担当者），2026年度実験手引書原稿回収と製本日程，教員数大幅減の2026年度実験テーマ・担当者検討＝1つの実験課題に対して1人の教員が担当（常勤6名，非常勤2名体制）</p> <p>12月11日（木）電子物理工学実験2（後期）前半の学生の取組状況把握（出席・レポート提出状況確認），後半の指導に活用，以降情報共有は全てメール連絡</p> <p>2026年2月6日（金）電子物理工学実験2（後期）の成績判定会議，会社訪問（前期）・ポスター発表（後期）の評価，来年度予算とTA数（4名）検討，実験主担当者の交代時期の</p>	<p>前期8人 後期7人</p>

	変更, 2026 年度に新テーマ, 4月着任教員担当	
電気電子システム工学 科 分野教育改革会議	部局の教育委員会の情報共有し、分野の教育方針の審議 などを行う(月例/8月休会、年 11 回開催)	5 人
電気電子システム工学 科 実験委員会	分野が担当する実験に関して方針、学生の受講状況などを共有する。(定例/年 3 回開催)	14 人
応用化学科 教育委員会	学科全教員で担当する必修科目(応用化学概論、応用化学総合演習)に関する実施内容検討 第 1 回(7月9日) 応用化学概論の振り返りと次年度の実施計画、応用化学総合演習、応用化学実験の実施計画について 第 2 回(1月13日) 応用化学総合演習の振り返りと応用化学概論の次年度の実施計画について	11人/回
応用化学科 教室会議	学科全教員で担当する必修科目の今年度の実施状況及び次年度の準備状況の情報共有と検討 第 1 回(7月28日) 前期の履修状況の情報共有と学科共通必修科目(応用化学概論)の実施状況について 第 2 回(12月23日) 後期の履修状況の情報共有と学科共通必修科目(応用化学総合演習)の実施状況について	24人/回
化学工学科・教室会議 と職員会議	4月28日: 専門科目授業の進捗状況、在学生の履修指導、コンタクト教員制度による1年次生・2年次生の面談計画、4年次生の研究室配属後の状況、博士前期学生の就職状況、博士後期学生の進捗状況、履修登録に問題のある学生の抽出について 5月26日: 教務委員会/教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況、博士前期学生の就職状況、入学時アンケートへの対応、コンタクト教員からの面談報告について 6月23日: 教務委員会/教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況と中間試験の成績不審者、実験科目のレポート提出状況、博士前期学生の就職状況、化学工学序論の研究室見学について、編入学試験の実施状況、コンタクト教員からの面談報告について 7月28日: 教務委員会/教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況と成績不審者および多回欠席者、実験科目のレポート提出状況、博士前期学生の就職状況 8月20日: 大学院入試の状況、卒業研究と大学院 A 群科目の評価、前期授業の成績不審者や実験科目や必修科目の不合格者について 9月29日: 教務委員会/教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況、博士前期学生の就職状況、前期授業の成績不審者や実験科目や必修科目の不合格者への面談状況、在学生の単位習得状況について、完成年度に向けたカリキュラムの見	14 人

	<p>直しについて</p> <p>10月27日：教務委員会／教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況、博士前期学生の就職状況、オープンラボ、前期授業の成績不審者や実験科目や必修科目の不合格者への面談状況、進級が危ぶまれる学生の面談結果、3年次編入生に対する学科教育と単位認定科目間のギャップを埋めるための対策、博士前期課程学生への大学院博士後期進学・就職についての説明会、コンタクト教員からの面談報告、編入学試験PRについて、完成年度に向けたカリキュラムの見直しについて</p> <p>11月25日：教務委員会／教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況、博士前期学生の就職状況、オープンラボ実施報告、3年次編入生の単位認定とガイダンス、博士後期課程学生の博士論文の論文投稿状況、コンタクト教員からの面談報告、完成年度に向けたカリキュラムの見直しについて</p> <p>12月22日：教務委員会／教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況、博士前期学生の就職状況、卒論・修論発表・大学院博士前期1年学生の間接発表、新入生・在校生オリエンテーション、博士後期課程学生の論文投稿状況、完成年度に向けたカリキュラムの見直し</p> <p>1月26日：教務委員会／教育運営委員会報告、専門科目授業の進捗状況、必携PCの部局独自スペック、博士後期課程学生の博士論文提出・査読状況、博士後期課程学生の公聴会について、完成年度に向けたカリキュラムの見直し</p> <p>2月12日：卒業研究と大学院A群科目の評価、卒業研究発表賞とM1ポスター発表優秀賞の選定について</p> <p>2月24日：教務委員会／教育運営委員会報告、修士研究発表賞と化工研究業績賞の選定、化学工学序論・化学工学英語演習の実施方法、学生アドバイザーによる1年次生、2年次生の個別ガイダンス、進級できない3年次生のケア、3年次編入学生への履修指導について</p> <p>3月30日：教務委員会／教育運営委員会報告、新入生・在校生オリエンテーション、化学工学序論・化学工学英語演習の実施方法、在学生の単位習得状況、次年度授業分担について</p>	
<p>マテリアル工学・2025年度教室会議／担当者会議</p>	<p><b>第1回（担当者会議4月22日、教室会議4月23日）</b></p> <p>飛び級候補者選定、大学院口述試験対象者選定、副指導教員制度の運用方針、研究発信ロードマップ年度計画、研究室における事故防止および安全管理の徹底などについて</p> <p><b>第2回（担当者会議5月27日、教室会議5月28日）</b></p> <p>大学院他専攻科目の履修登録、FD活動の取り組み、大学院入試実施体制の確認、国際性向上の取組などについて</p>	

	<p><b>第 3 回（担当国会議 6 月 24 日、教室会議 6 月 25 日）</b> 前期試験実施計画、FD セミナー、オープンキャンパスなどについて</p> <p><b>第 4 回（担当国会議 7 月 29 日、教室会議 7 月 30 日）</b> 成績 博士後期課程の人数、大学院入試準備などについて</p> <p><b>第 5 回（担当国会議 9 月 22 日、教室会議 9 月 24 日）</b> 後期履修状況確認、教員退職に伴う大学院生配属研究室の調整、大学院修了予定者対応、研究発表会実施体制などについて</p> <p><b>第 6 回（担当国会議 10 月 28 日、教室会議 10 月 29 日）</b> 後期授業運営状況確認、2026 年度入試などについて</p> <p><b>第 7 回（担当国会議 11 月 25 日、教室会議 11 月 26 日）</b> 学生の不正行為対応、工学再編などについて</p> <p><b>第 8 回（担当国会議 12 月 23 日、教室会議 12 月 24 日）</b> 修士論文・卒業研究発表会、教免のカリキュラムなどについて</p> <p><b>第 9 回（担当国会議 1 月 27 日、教室会議 1 月 28 日）</b> 2027 年度以降の再編を見据えた体制検討、卒業研究配属方針、再編後の入試体制などについて</p> <p><b>第 1 0 回（担当国会議 2 月 24 日、教室会議 2 月 26 日）</b> 2026 年度新入生カリキュラムオリエンテーションの実施について、高専学生のマテリアル工学科訪問について</p> <p><b>第 1 1 回（担当国会議 3 月 23 日、教室会議 3 月 25 日）</b> 新学科カリキュラムについて、2026 年度オープンキャンパスについての検討、私費外国人留学生特別選抜制度について</p>	
<p>化学バイオ工学科 FD 集会</p>	<p>化学バイオ工学科 FD 集会（3 月 23 日）にて、主に学生の問題行動の把握と組織的対応について議論した。</p>	<p>21 人</p>
<p>化学バイオ工学分野会議</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 回分野会議（4 月 22 日）にて、学生の履修、就学状況について確認および討議した。</li> <li>・第 2 回分野会議（5 月 26 日）にて、学部・大学院入試、学生の動向について情報共有および討議した。</li> <li>・第 3 回分野会議（6 月 24 日）にて、学部・大学院入試、学生の動向について確認および討議した。</li> <li>・第 4 回分野会議（7 月 28 日）にて、学生の動向、学部・大学院入試、授業カリキュラムについて情報共有、確認および討議した。</li> <li>・第 5 回分野会議（8 月 25 日）にて、学生の動向について情報共有および討議した。</li> <li>・第 6 回分野会議（9 月 22 日）にて、大学院入試、学生の動向について情報共有および討議した。</li> </ul>	<p>21 人</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第7回分野会議（10月21日）にて、学部・大学院入試、学部カリキュラムについて確認および討議した。</li> <li>・第8回分野会議（11月25日）にて、大学院入試、学部カリキュラムについて確認および討議した。</li> <li>・第9回分野会議（12月22日）にて、大学院入試、学部カリキュラムについて確認および討議した。</li> <li>・第10回分野会議（1月26日）にて、学部カリキュラム、修士論文発表会、卒論発表会、学生の動向について確認および討議した。</li> <li>・第11回分野会議（3月2日）にて、学部・大学院入試、学部カリキュラム、学生の動向について確認および討議した。</li> <li>・第12回分野会議（3月23日）にて、大学入試、学生の動向について情報共有および討議した。</li> </ul>	
--	---	--

4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組

<p>(工学全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度に入学した学部生および大学院生を対象に入学時アンケートを実施し、本学で身につけたい能力や将来取得したい学位など幅広い項目で調査を行なった。結果は工学部内で共有した。</li> <li>・2025年度に修了する博士前期課程大学院生を対象に修了時アンケートを実施。(2026年3月予定)</li> </ul> <p>(航空宇宙工学科、航空宇宙工学分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生オリエンテーション、学年ガイダンス</li> <li>・授業評価アンケートの実施と授業改善の検討</li> <li>・卒論発表優秀賞、および修論発表優秀賞、修論アイデア賞の選出</li> <li>・「航空宇宙工学工作実習」（前期木曜3・4コマ）について、今年度実施した学科独自の実施状況を踏まえ、来年度に向けた内容の改善を検討</li> <li>・学部入学制度と在籍学生の成績の分析</li> <li>・ボーイングエクスターンシップへの参画</li> <li>・「航空宇宙工学実験」（前期・後期水曜3・4コマ）の改善に向けた検討・機器の更新</li> </ul> <p>インターンシップ報告会を通じ、エンジニアのキャリア教育を充実</p> <p>(海洋システム工学科、海洋システム工学分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「卒業研究」「海洋システム工学実験」で運用を開始したルーブリックの運用結果を評価し、見直すとともに継続して運用することを決めた。</li> <li>・総合型選抜内容について議論した。</li> <li>・前年度に引き続き、入学区分や学年ごとの成績データを解析し、学生動向や成績動向について調査した。</li> <li>・前年度に引き続き外部評価試験結果（2013年度まで StudentEQ 等→2024年度以降 PROG）と成績および教育プログラムとの関係を分析した。</li> <li>・大学院 関西海事教育アライアンス運営委員会を2026年2月24日（開催予定）に開催し、2025年度開講科目の現状を評価し、科目の内容を見直した。</li> </ul> <p>(建築学科・建築学分野)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回程度開催される学科会議において、学生の就学状況に関する情報を共有し、必要な場合には対策</li> </ul>
---

について協議・検討を行った。

- ・学年横断型の設計課題講評会(Vertical Review)を、公大建築会議と併せて前後期各1回開催した。
- ・外部講師を招いた講評会において卒業設計最優秀賞を授与した。(2/16)
- ・学科での卒業証書授与式において、建築学科賞(論文)および建築学科賞(設計)をそれぞれ授与した。(3/24)
- ・学科 OB・OG による職業ガイダンスを実施した。(7/9、16)  
(都市学科・都市学分野)

- 月に1回開催される学科会議において、学生アドバイザーからの報告をもとに学生の履修状況について確認を行った。
- 学科 FD 集会を2回開催した。第1回(11/4)では、教務課から提供される成績表をもとに総合型選抜入試による入学者を対象に、GPAの推移について情報共有を行った。第2回(3/3)では、近年実施大学が増加している「女子枠」について、導入状況や課題について議論を行った。  
定期的に演習・実験科目毎にワーキンググループ活動を行い、演習・実験科目の継続的な品質向上を図った。3年次後期の「スマートシティ創成演習」では、同時期に研究室に配属されることを踏まえ、研究室に関連する文献資料のレビューを行うようにした。都市学実験 WG では、学生のレポート作成能力について情報共有するとともに、前半担当者の評価・指導方法について意見交換を行った。
- 演習・実験科目ごとのワーキンググループ活動

(電子物理工学科、電子物理工学分野)

○共通

- ・カリキュラムオリエンテーションを利用して、新入生が大学生活を滞りなくスタートできるように、新入生向けの導入研修を実施した(4月2日実施)。
- ・学部生、院生(M,D)向けのオリエンテーションを実施し、大学生活および単位修得に関する注意喚起を行った(4月1日実施)
- ・教室会議において、入学試験及び入学時アンケートの情報を共有した。
- ・特に「電子物理工学概論 1, 2」では1年生の意識調査に関するアンケートを実施し、学科内で共有した。アンケート結果を基にして、次年度はより充実した講義にするための意見交換を行った。また、「電子物理工学概論 1, 2」の成績を基にして成績不振者の動向に関する情報を共有した。
- ・工学 FD セミナー等の学内 FD セミナーに参加した(詳細は6.で説明)。
- ・編入生が在学生よりも不利にならない時間割構成に関する検討を行った。

○電子物性コース

- ・講担会議・教室会議を定期的実施し、教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施している。
- ・前期・後期に実施する授業評価アンケートの分析結果の情報を共有した。
- ・卒業・修了時アンケートの情報を共有した。
- ・特に M2 怠惰学生に対する設定した指導ルールを確認・実行した。
- ・教育 PDCA サイクルを実践すると同時に課題点を洗い出し、講担会議・教室会議(各11回)を通して、解決に向けた検討を行った。本活動報告の提出後、学外チェック委員にコメントをいただく予定である。
- ・電子物理工学実験 I, II について、出席・レポート提出状況を担当教員以外も参照できるようにすることで、主任や学年アドバイザーの教員等が適宜サポートできる体制を整えた。
- ・アセスメントシートに基づく点検について講担会議および教室会議で情報共有・意見交換を行い、点検

内容に問題がないことおよび実効性が伴っていることを確認した。

#### ○電子材料コース

- ・ 教室会議を定期的に実施し、教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施した。
- ・ 前期・後期実施する授業評価アンケートの分析結果の情報を共有した。
- ・ 卒業・修了時アンケートの情報を共有した。
- ・ 基幹教育のプログラミング入門A(1年)がプログラミング基礎(2年)に変更されたことに対応して、材料コースの関連専門科目の配当年次を変更(基礎と専門の同時進行の回避)
- ・ 教育PDCAサイクルを実践すると同時に課題点を洗い出し、コース教授会・コース教員会議を通して、解決に向けた検討を行った。本活動報告の提出後、学外チェック委員にコメントをいただく予定である。
- ・ 電子物理工学実験1(電子材料)で開講するテーマ「研究開発実務研修」(工場見学)を毎年継続的に実施。現場見学の重要性を再確認した。
- ・ 電子物理工学実験2(電子材料)でのポスター発表会を毎年継続的に実施。学部生のプレゼン・質疑応答の機会提供と彼らの能力把握の機会を持つことの重要性を再確認した。
- ・ 教員数大幅減となる2026年度以降の電子物理工学実験1(電子材料)及び2(電子材料)の質維持・向上を目的として、実験テーマ改訂・担当教員変更・非常勤雇用の計画立案。

#### (電気電子システム工学科、電気電子システム工学分野)

- ・ 大学の実施する学生アンケートを学科独自で集計を行い、教員間で共有した。
- ・ 3年生後期の実験科目のまとめとして成果発表会を実施した。実験担当以外の教員も参加し、実験担当者以外の視点からのコメントを行った。コメントは学生がレポート内にまとめることで実験担当者が共有した。
- ・ 3年生に研究室の雰囲気を知ってもらい、研究室配属先選択の一助とするため12/1~5に分野全研究室の研究室見学会(オープンラボ)を開催した。
- ・ 3年生に配属希望研究室の研究内容を知ってもらうため、M1科目の特別演習第2で実施するポスター発表会を3年生の実験科目の中に組み込んだ。
- ・ 学部3年生や修士1年生をメインの対象とした、博士課程やその進学後のキャリアを考えるセミナーを12/8に開催した。

#### (応用化学科、応用化学分野)

- ・ 学年毎に3名の担任教員を設け、4月にカリキュラムに関するオリエンテーションを実施し、年間を通して学生からの相談に応じることのできる体制を敷いている。
- ・ 実験科目については、基礎教育科目である1年次の基礎化学実験の担当として、学科から複数の教員を出すことによって入学直後の学生の化学に関する理解度を把握し、2年次以降に実施する専門科目である応用化学実験につなげるための学科内での情報共有を行っている。
- ・ 演習科目については、理解度や学習状況を把握するためのアンケートを実施し、次年度以降の授業改善に向けて活用することとしている。

#### (化学工学科、化学工学分野)

#### ○学部・課程

- ・ 化学工学科・課程では、4月および必要な時期に、学年ごとにとりまとめたガイダンス資料に基づいたカリキュラムオリエンテーションを開催し、学生の履修相談等に積極的に助言を与える。また、3年次編入学の学生に対しても別途ガイダンスを開催し、単位認定も踏まえた卒業に向けてのガイダ

ンスを行う。

・授業の履修や学生生活における相談窓口として、学生アドバイザーに加え、いつでも教員と相談できるコンタクト教員制度を導入し、修学・進路・家庭・課外活動・その他学生生活全般についての相談に応じるとともに、指導または助言を与える。特に成績不振者や過年度生について、学生アドバイザーが面談を行い、適切な助言を行う。

・毎月、教室会議終了後に職員会議を開催し、授業の履修・出席状況を確認し、学生アドバイザーやコンタクト教員による対応など、問題解決のための協議を行う。

・独自のマークシート式の授業アンケート、職員会議、カリキュラム委員会などで挙げた意見や問題を話し合い、教育の質の改善・向上に生かす取組みを続ける。

・内部質保証の観点から、学卒の程度の化学工学に関連した専門的応用能力を持っている「技術者」「研究者」を対象にした外部試験として「化学工学技士（基礎）」の受験を推奨し、その結果を今後の教育に反映する。

#### ○大学院

・博士前期課程および博士後期課程のすべての学年に対して、ガイダンス資料に基づいたカリキュラムオリエンテーションを実施し、学生の履修相談、研究の進捗などに積極的に助言を与える。また、大学院博士後期課程進学における経済的なサポート状況などの大学や工学研究科の制度などを詳しく説明する説明会を開催する。

・指導教員のみならず分野長、副分野長、教務委員などが、家庭・課外活動・その他学生生活全般についての相談に応じるとともに、指導または助言を与える。

・毎月授業の履修・出席、研究室での研究の進捗状況を確認し、教室会議終了後の職員会議で報告し、研究指導教員による対応など、問題解決のための協議をする。

・大学院の博士後期課程学生の博士研究の進捗状況を分野全教員で共有する。

・独自のマークシート式の授業アンケート、職員会議、カリキュラム委員会などで挙げた意見や問題を話し合い、教育の質の改善・向上に生かす取組みを続ける。

(マテリアル工学科・マテリアル工学分野)

・学科／分野内 FD 活動計画・進捗などについて議論するため、ワーキンググループを編成した。

・毎月開催される担当者会議および教室会議において、成績不振学生への対応、履修状況確認、授業アンケート結果共有など、学科 FD 全般について継続的に議論した。

・飛び級候補者および大学院口述試験対象者の選定において GPA 基準を明確化し、公正性・透明性を確保した。

・学生本人の希望に基づき副指導教員を決定し、必要に応じて面談を実施し、精神的ケアを含む研究指導支援を行った。

・研究指導計画書の作成を徹底し、研究指導體制の質保証を図った。

・学生本人の希望に基づき副指導教員を決定し、定期的な面談を行い、精神的なケアを含む研究指導のサポートを行った。

・全学 FD セミナーへの参加を呼び掛け、授業改善に資する情報共有を行った。

・研究室における事故再発防止および安全管理体制の強化を図り、学生への周知を徹底した。

・ハラスメント防止研修を受講し、研究室運営の適正化を図った。

・教員人員構成の変化および森之宮キャンパスでの 1 年次授業実施への対応を踏まえ、講義担当・科目内容・時間割の検討を行った。

- ・大学院他専攻科目履修登録の在り方について検討した。
- ・外部研究者を招いた講演会・合同シンポジウムを開催し、最先端研究に触れる機会を提供した。
- ・国際化推進の観点から海外研修・留学支援制度の周知を行った。
- ・電子ジャーナル契約など、研究環境維持に向けた議論を行った。
- ・入試区分と成績・進学状況との関係について情報共有を行った。
- ・月1回開催の学科・分野会議において、注意が必要な学生の動向に関する情報を共有し、適宜対応を協議した。

(化学バイオ工学科, 物質化学生命系化学バイオ工学分野)

- ・1-3回生全員に対し、学生自身による単位取得状況振り返りの機会を設けるとともに、教員との個人面談を行い履修計画に対するアドバイス等を半期ごとに行った。4回生および大学院生に対しては、所属研究室の研究指導教員が適宜対応した。
- ・月1回開催の学科・分野会議において、注意が必要な学生の動向に関する情報を共有し、適宜対応を協議した。

(量子放射線系専攻)

- ・分野所属教員は、全学 FD 研修や工学研究科 FD セミナー等の学内主催行事に継続的かつ主体的に参加し、教育方法および指導力の向上に努めている。また、専門分野に関する学外での知識普及活動やアウトリーチ活動にも積極的に参画し、幅広い世代を対象とした量子放射線関連知識の普及を行っている。これらの学外活動から得られた知見を学内 FD 活動に還元し、授業内容の質的向上および時代に即した教育内容への更新に反映させている。
- ・分野内において月1回の頻度で教員会議を開催し、その中でFDに関する協議を実施している。学生の講義履修状況や大学院における研究進捗状況について情報共有を行うとともに、単位未修得学生への対応を含め、効果的な学習指導の在り方について議論し、継続的な改善に取り組んでいる。
- ・本分野は学生数と所属教員数が同程度であるという特徴を活かし、きめ細かな学習支援を実施している。履修や研究遂行に困難を抱える学生に対しては、個別相談の機会を頻繁に設けるなど、手厚い支援体制の強化を図っている。
- ・FD 会議において、次年度以降の講義内容およびカリキュラム構成について検討を行い、学生の専門知識の深化と教育水準の向上につながるよう改善を進めている。
- ・博士前期課程1年次学生を対象とした研究発表会を分野主催として例年12月に実施し、早期から研究の進捗状況を学内教員に広く報告する機会を設けることで、学生の研究意欲の向上および教育効果のさらなる増進を図っている。
- ・博士前期課程2年次学生を対象とした修士論文発表会では、全教員によりそのプレゼンテーション能力に対する評価を行い、採点、表彰することで、修了予定者の学位論文をとりまとめる意欲およびプレゼンテーション能力の向上を図っている。

5. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 [実数] (必ずご記入ください)

- ・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (228) 人
- ・所属内の専任教員の人数 (247) 人

6. その他、追記事項

(電子物理工学科, 電子物理工学分野)

○電子物性コース

- ・ 講担会議・教室会議を定期的実施し, 教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施している。
- ・ 学生の成績 (GP) を基にして成績不振者の動向に関する情報を共有した。

○電子材料コース

- ・ 教室会議を定期的実施し, 教育の質の改善・向上に関する取り組みを実施している。
- ・ 学生の成績 (GP) を基にして成績不振者の動向に関する情報を共有した。
- ・ 学部学生用自習室 (B7 棟 E316 室, 昨年度より運用開始) の継続的運用。
- ・ 2025・2026 年度教員異動後 (減 5 名, 増 1 名) の教育体制維持・向上のために, 新規非常勤雇用・量子放射線の教員兼任などの策を検討・予算獲得・承認獲得・人員獲得を実施した。

○セミナー等の参加状況

- 2025.04.17 全学 FD セミナー「内部質補償スタートアップ支援事業成果報告会」 参加 1 名
- 2025.04.25 全学 FD セミナー「そのレポート、AI 製? Moodle で始める AI ライティング対応」  
参加 10 名
- 2025.07.02 全学 FD セミナー「大阪公立大学で学生はどう学んでいるのか: 学生調査結果から見える学修状況」 参加 9 名
- 2025.08.25 工学 FD セミナー/全学 FD セミナー「研究室等におけるハラスメント事例とその対策」  
参加 28 名
- 2025.10.20 第 4 回教育改革フォーラム/大阪公立大学 全学 FD・全学 SD「生成 AI 時代のレポート課題を考える」 参加 4 名
- 2025.12.15 全学 FD・SD「FD 研究会 各学位プログラムにおける学生の学修状況・学修成果の評価」  
参加 6 名

オンデマンド アクセシビリティセンター研修 2 名

オンデマンド アンコンシャスバイアス研修 1 名

○外部評価

- ・ 各コースおよび学科全体の FD 活動について、学外評価者から PDCA サイクルに従ってよく活動できているとの評価があった。

(化学バイオ工学科, 物質化学生命系化学バイオ工学分野)

- ・ 1-3 年生全員に対し、学生自身による単位取得状況振り返りの機会を設けるとともに、教員との個人面談を行い履修計画に対するアドバイス等を半期ごとに行った。4 年生および大学院生に対しては、所属研究室の研究指導教員が適宜対応した。
- ・ 月 1 回開催の学科・分野会議において、注意が必要な学生の動向に関する情報を共有し、適宜対応を協議した。